

3-3-1 平湯街道

① 平湯街道の概要

江戸時代における飛騨国の国境は、標高が三千メートルもある山脈の屋根上にある。厳しい山脈に四方を囲われている飛騨だが、東の江戸へ、南の尾張へ、西の越前へ、北の越中へと、物資運搬や人の移動には街道が必要であった。

丹生川地域にも信州へと通じる街道があり、「平湯街道」また、ある時期には「信州への道」として大きな役割を果たして来た。その道筋は町方、坊方、大谷、小野、平湯、安房峠へと進むが、坊方から小八賀川を渡って日当たりのよい北方、法力、瓜田を通る道もあった。

② 平湯街道の道筋

毎年、十二～三月まで、平湯峠は冬期通行止めであったが、昭和五十三年に平湯トンネルが開通してからは通年の通行ができるようになった。それまでは、高山から冬期に平湯温泉へ行くには十三墓峠、あるいは神岡回りであった。

高山城下町 →

ア 宝橋 → イ 長坂 → ウ くぬぎ峠 →
エ 七夕岩 → オ 車田 →
カ 史跡平湯街道、馬頭観音 → キ 尾崎城 →
ク 森ヶ城 → ケ 荒川家 →
コ 小野 上野用水取水口 →
サ 川尻治助が建てた田上家 → シ 飛騨大鍾乳洞 →
ス 伊太祁曽神社 → セ 岩井谷、池之俣 →
ソ 朴ノ木平スキー場 →
タ 乗鞍山麓五色ヶ原の登山口 → チ 久手牧場 →
ツ 平湯峠 → テ 乗鞍岳 → ト 平湯温泉 →
ナ 平湯峠をゆくニッサン 90 型バス → ニ 平湯大滝 →
ヌ 安房峠 → ネ 中之湯温泉 → ノ 白骨温泉 →
ハ 道の駅 風穴の里 → ヒ 島々 → フ 松本へ

③ 街道沿いにのこる史跡

ア 宝橋

昔の宝橋は城下町高山から平湯へ向かう街道中、最初の橋であった。西側に架橋の跡が残るのみで、今は国道 158 号に新しい宝橋が架かっている。

イ 長坂（愛宕町、東山町）

素玄寺と大雄寺の間を抜けてゆく坂で、長い坂である。東へ進んでゆくと、くぬぎ峠の上がり口に至る。

ウ くぬぎ峠（三福寺町、松之木町、曙町）

この峠はかなり急坂で、途中にくぬぎ公園が整備されていて、松之木町側に下ると景色が良い。東小学校の西側に降り、松之木集落を通過して旧大八賀村役場建物の前を通過してゆく。

エ 七夕岩（松之木町）

松之木の七夕は、松之木町にある七夕岩で行なわれる行事を中心としている。七夕岩は、大八賀川の兩岸に立つ、男岩と女岩の二つの大岩からなる。毎年八月六日（古くは七月六日）に、男岩（左岸）と女岩（右岸、漆垣内側）の両岩に大しめ縄を張り渡し、飾り提灯や、その年男の子の生まれた家では藁の馬を、女の子の生まれた家では糸巻きを吊るし、牽牛織女の二星をまつり、五穀豊穰を祈る。平成二十六年八月六日の七夕には馬五頭、糸巻き三基、行燈八十個が吊るされた。

この行事は元禄時代以前から行なわれていたといわれ、「飛州志」や「飛騨国中案内」、「斐太後風土記」の中でも紹介されており、古くから遠近に知られていた。

国道を横断して張られ、危険なために、一時中断したこともあったが、当局との折衝の末、復活をした。

歴史もあり、他では見られない貴重な民俗行事である。

オ 車田（松之木町）

金森重頼は、鷹狩（たかがり）の帰途、車田に立ち寄り、当座の一首を詠んでいる。

見るもうし植うるも苦し車田のめぐりめぐりて早苗取るかな

現在の植え方は、他の中心に杭を打ち、中心から七本の線を出す。一株の苗を三本ずつとし、一本の線に五株植え、あとはその外側に同心円状に植える。下肥は決して使わない。古い車田形式の植え方をなお保存しているのは、ここと佐渡だけである。

カ 史跡「旧平湯街道附馬頭観音、一里杭」（松之木町）

史跡指定は五六七・九メートルで、国道 158 号線入口から丹生川村境までである。途中の馬頭観音、一里杭を含める。

江戸時代においては、高山から平湯方面に至る重要な街道であったが、都市化により旧街道の残る地域はここだけになってしまった。道行く人に里数（りすう）を知らせる

里杭（りぐい・石標）がここには残存し、欠損してはいるが「従高山口」の文字が読める。また「まこも坂」の登り口には大岩に彫られた二体の馬頭観音がある。向かって左側の馬頭観音は高さ一六〇センチメートル、幅一九〇センチメートルの大岩露出部に、高さ六八センチメートル、幅九三センチメートルの長方形区画を彫り、その中に馬頭観音ほか二体の仏像を浮彫りにし、左端枠外に延享二年（一七四五）の刻銘がある。

大岩は二個のように見えるが根の方でつながっている。昔ここで駄馬が遭難したので、供養のために造像したという。

キ 尾崎城（丹生川町坊方・ぼうかた）

〈金の鶏が生まれる城〉

尾崎城は、またの名を「金鶏城」という。黄金の鶏が地下に埋まっている、埋蔵金が埋まっているという言い伝えが地元であり、何時か掘り当てようという人たちがずっと狙っていた城跡である。この金鶏伝説は全国各地にある。山中や長者屋敷、塚の中に金の鶏が埋められていて、中から鶏の鳴き声が聞こえてくるというものが多い。また、欲深爺さんに殺された鶏を、正直爺さんが悲しんで埋めて塚を作ったら、次の朝に金の鶏になって生きかえったという話の掛け軸もある。金が儲かる、長者になるという縁起の良い金鶏としてその軸は床の間に飾られる。

明治三十九年、尾崎城二ノ丸から備蓄銭が大量に発掘された。宋銭などおびただしい量が出土し、村の人たちで分配したという。その一部は丹生川村の文化財に指定された。

ところで、尾崎城には誰が在城していたのか。天文年間（一五三二）、宮川筋の北飛驒と越中方面に支配権を持っていた「塩屋秋貞」がいた。秋貞は古川城（古川町）、塩屋城（飛驒市宮川町）、猿倉城（富山県大沢野）などを拠点にしていたが、永禄七年（一五六四）、信州武田側の武将「飯富昌景」らの飛驒攻めにあい、富山に退いている。天文十三年（一五四四）の飛驒兵乱には三木側についていた。天正十一年（一五八三）大沢野で討死している。

平成六～十年にかけて、丹生川村により城跡の発掘調査がなされ、平坦部の遺構が明らかになった。また石臼、砥石、石製品、陶器が出土し、陶磁器は十五世紀代に製造されたものが中心で、青磁や白磁の高級品が見られる。出土遺物の時期から考えて、塩屋氏の時代より古くから、この尾崎城の場所が館などに使用されていたと考えられている。六百年も前から尾崎城を中心に政治経済が町方地区で発展してきたのは、飛驒の国の中での大きな地形的利得があったからに違いない。

ク 森ヶ城（丹生川町大谷・おおたに）

室町時代（天文～永禄）の頃に築城され、城主は森大隅守といわれている。

遺構は、一アール程の山頂に本丸と袖曲輪があり、丘壇状の平地に空掘りなどがあつ

た。ふもとには小屋の跡、天神の祠もある。尾崎城とほぼ同じ時代で、塩屋秋貞について武田信玄の上洛を阻止する役目をしていたという。三木氏との関係から上杉謙信方につき上洛の道すじを守ったものである。尾崎城の副城的役割をもったのではと考えられ、永禄七年、武田軍の乱入で千光寺や尾崎城が焼打ちされた時、同じ運命をたどったのではといわれている。

ケ 荒川家

この平湯街道沿いの大谷集落に、国指定重要文化財の名建築旧荒川家住宅がある。大谷という所は戦国時代から戦略上の重要な場所で、「森ヶ城」という戦国時代の山城が大谷にある。また、朝日、岩井町方面から信州方面への道筋上にあって、重要拠点に荒川氏が配置されたのであろう。

荒川家は四百年前に金森氏が国主になった頃から肝煎りを務め、元禄時代（幕府直轄地時代）には大谷、小野、根方、白井、芦谷、板殿の六カ村兼帯名主を務めていた。

間口十一間、梁間八間半の大型農家で、寛政八年（一七九六）建の棟札が残る。裏手にある土蔵も古く、延享四年（一七四七）の普請帳が伝わっている。内部の間取りは四ツ出居が一段高く造られ、慶弔行事、村方寄り合いに都合がよい大広間として利用された。気持のよい巨大空間の贅沢な大広間である。

農家なので向かって左手に馬屋がある。二階はイロリの煙が上がりやすいスノコ天井で、広大な養蚕作業場が確保されている。

コ 小野 上野用水取水口（丹生川町小野・この）

上野平に水を引いている上野用水は小野地区小八賀川から取水している。延長〇〇キロメートルで、昭和二十六年に開通した。

カ 伊太祁曾神社（丹生川町旗鉾・はたほこ）

「伊太祁曾」は乗鞍の別称で、丹生川地域に伊太祁曾神社は、日面、瓜田、根方、小野、日影、板殿、旗鉾、池之俣の八社がある。乗鞍本宮の里宮とされ、乗鞍岳を神体山と仰ぐ。いずれの神社も祭神は、林業の神である五十猛（いそたける）で、山林業振興が託される。乗鞍岳、小八賀川は地域住民の、文化と記憶の基底を、構成し続けている。

本社は元、乗鞍の恵比寿岳に鎮座されていたが、元中七年（一三九〇）に久手に遷し、さらに明德年間（一三九〇～一三九四）に旗鉾字東森に遷座、寛永年間（一六二四～一六四四）になって現在地に奉遷したという。

現在の建物（市指定文化財）は文化十年（一八一三）に建てられた。流れ造りで斗栱の彫刻も優れている。

この神社でよく知られている「くだがい神事」は高山市の無形文化財に指定されている。正月十四日に執り行なわれ、六百年前頃から続いている伝統行事である。

神事は、占い事を書き記したサワラの札（木札）と麻がらを麻皮でしばり、米、小豆、大豆と一緒に粥として釜で炊き上げ、麻の管に入ったそれらの穀物の量により、その年の吉凶を占うものである。その結果は「くだがい帳」に記される。

キ 朴ノ木平スキー場（丹生川町久手）

昭和四十六年にオープンしたスキー場で、夏はコスモス園が開園する。乗鞍登山バスは、このスキー場の駐車場に自家用車を駐めて乗鞍岳壘平に行く。

ク 久手牧場（丹生川町久手）

久手牧場は公共の牧場で、面積は約一〇〇ヘクタール、久手牧場管理組合が管理している。

ケ 平湯峠（奥飛騨温泉郷平湯）

峠は標高一六八四メートル、頂上から丹生川方面を見て、白山が遠望できる。少し上に乗鞍スカイラインのゲートがあり、一般の車は登れない。自転車は登れる。

平湯トンネルは昭和四十六年に着工し、昭和五十三年に開通、総延長は二四三〇メートルである。冬期にも最短で平湯温泉に行くことができ、安房トンネルも出来てずいぶん便利になった。

コ 乗鞍岳

高山市上宝町、丹生川町、朝日町、高根町、長野県松本市安曇にまたがる山岳。標高三〇二六メートル、頂上に乗鞍神社が鎮座している。壘平までの乗鞍スカイラインは昭和四十八年に開通した。

ケ 平湯温泉

湧出量が豊富で、泉温は 46～96 度。永禄七年（一五六四）に飛騨へ侵入した武田勢が発見したという伝説をもつ古い温泉。

コ 平湯大滝（奥飛騨温泉郷平湯）

乗鞍岳の四ツ嶽南端の平湯川（高原川の源流）が落ちる滝で、高さ四五メートルある。冬は氷結して青色となり、訪れる人が多い。

サ 安房峠（奥飛騨温泉郷平湯・長野県松本市安曇）

平湯と長野県上高地を結ぶ峠で、峠の標高は一八〇一メートル、古くから信州と飛騨を結ぶ重要な街道であった。

永禄二年（一五五九）に武田軍の武将飯富三郎兵衛らは飛騨東部を攻めたが、江馬氏の高原郷、塩屋筑前守の小八賀郷へと通ずる乗鞍の北を越えてきたというので、安房峠を越えたと考えられている。

峠のある山は「安房山」で、標高は二二一九・四メートルである。

『高山市史・街道編』高山市教育委員会 平成 27 年発行 より